

手話教室

小浜市立小浜中学校 二年 杉本知永

私は、今年の八月から健康管理センターでの手話教室に通い始めました。通うきっかけとなったのは、聲の形というアニメの映画を見たことです。たまたま暇だったから見た映画で、聴覚障害という病気や手話に興味を持ちました。

この映画は、聴覚障害を持つ女の子と、彼女をいじめていた男の子の物語で、いじめや過去の過ち、それぞれの成長や和解を描いた物語です。初めはその主人公である女の子に感情移入し、手話というものに興味を持ち、本屋さんで手話の本を買い、挨拶の練習をしていました。

本を読みながら練習していくうちに、手話が少しずつできてきました。相手がいないので、自分の手話が合っているのか間違っているのか分からず、もっと手話を使いこなせるようになっていきたいと思い、両親に手話教室に通いたいとお願いしたら、「小浜市がやっている手話教室が八月からあるみたいだからそこに通ってみたら。」と手話教室のことを教えてくれたのです。

今年の夏休み、家族で台湾旅行に行きました。旅行中、父が中国語で台湾人と会話しているのを初めて見ました。父が中国語を話せるのは知っていましたが、実際に台湾人と会話している姿を見て、かっこいいと思ったのと同じ時にうらやましく感じました。

私は中国語なんてできませんし、英語すら難しいと感じています。私は英語も中国語も話せないから台湾人と会話ができません。私がコミュニケーションを取れるのは、日本語が話せる人だけですが、父は日本語ができる人、中国語ができる人ともコミュニケーションが取れるということにずるいとまで思ってしまいました。台湾での旅行中、障害者の方が路上でチョコレートや花を売っていたり、地下街でマッサージの仕事をして生計を立てている人を見かけました。片手のない人、話のできない人、足の不自由な人、色んな障害者の方を目の当たりにしました。

小浜では身体障害者はあまり見かけず、台湾でのあまりの多さに初めは戸惑っていました。

すると、父が、

「お父さんも知永も目が悪いから眼鏡をかけるやろ。目が見えへん人は目の悪さが知永と度合いが違うだけや。」

と言ってきたのです。

その時、私は今まで障害者のことを健常者とは別物だと勝手に決めつけていたことに気付かされたのです。私もこのまま目が悪くなり目が見えなくなったら視覚障害者になります。交通事故に遭い、足が動かなくなったら身体障害者になってしまいます。障害にも色々あり、先天性や後天性、病気や交通事故、様々な原因がきっかけで目が見えなくなったり、耳が聞こえなくなったりしただけで、差別はしてはいけないと頭の中で理解はしていましたが、今まで心のどこかで、見えない線引きをしてきたかもしれません。それが台湾旅行で日本とは違うものを色々見て、心の中にあった線引きが、ふと消えたのが自分の中で分かりました。

日本では、現在、聴覚障害により身体障害者手帳を持っている人は約三十四万人いるとされています。しかし、日常生活で聞こえにくさを感じる人は日本の人口の約十％にあたる約千四百万人以上いるとされています。この人たちも好きで耳が聞こえにくくなったわけではありません。何かの原因で耳が聞こえにくくなったわけで、中身は私たちと何も変わりません。

私は、たまたま見た映画で、たまたま手話に興味を持ち、たまたま家族で行った台湾旅行がきっかけで、聴覚

障害の方々に対する思いががらっと変わりました。

手話教室には、八月から通い始めてまだ、数回です。これから、手話を勉強していくことで、色々な人と交流し、様々な経験をしていくと思います。また、これから手話とは違うものに興味を持つようになるかもしれません。

しかし、今回手話に興味を持ち、聴覚障害という障害を身近に感じる事ができたのは私にとって非常にいいことでした。

私の夢は、手話を通じて聴覚障害の方々とコミュニケーションを取り、自分の知識や見聞を広めることです。

また、障害者と健常者という垣根を壊し、差別という言葉自体をなくしたいと思います。